

第2話 昼と夜の話

インドに行ったら人生観が変わったというのは大げさにしても8年ほどインドに通って確かにいろんな事を考えさせられました。自分が当たり前と思っていた日本での常識もインドでは通用しないこともあり考えたら日本の常識の方が特別なのかもしれません。

公式には廃止されたカースト制度も人々の意識にはまだ深く残っているようです。アルワリアの田舎に彼の弟の結婚式に呼ばれて行った時、親しげに寄ってくる老婆がいたので親戚の人かとアルワリアに聞いたら冗談じゃないと否定した彼の表情はとてつもないものでした。多分カーストの違いがあったのでしょうが僕には全く解らない違いでした。

インドにおいて圧倒的多数を占める底辺の庶民はみな貧しさから脱しようと必死にもがいている感じがします。しかし大きな木の下で裸でのんびりと寝そべっている老人とそれに観光バスからカメラを向けている我々とどちらが精神的に満ち足りているのか難しい問題です。

もっとも、物乞いの老人から話しかけられインドと日本の話になった時、日本は戦後経済復興を遂げ物質的には豊かになったけど代わりに失ったものも大きかったと言ったら、彼はそれではあなたはインドのこの貧しさを肯定し我々に貧しいままでいる方が幸せとでも言うのかと厳しく迫られ深く考えもせず偉そうなことを言ったことを反省しました。きれいな英語でしたからただの物乞いではなかったのかも知れませんが、驚きました。

これほどシリアスではなくても、夜タクシーに乗ったら2割増しほどの夜間料金を払ってくれというので、払ったのですが夜間料金はいつから発生するのかと何気なく聞いたら運転手にお前は夜と昼の区別がつかないのかと言われ僕は返事ができませんでした。これはインド人運転手の勝ち、僕の負け。

写真はアルワリアの田舎の家族の写真です。両親と伯父さん夫婦に彼の小さな息子達でデリーから車で7時間ほどかかりました。

